

令和5年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策 体系	分 野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施 策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
重点プロジェクト				
主 管 課	教育部 社会教育課	評価責任者	山中 昇	
		評価日	令和6年6月1日	
関 連 課	学校教育課			
目 標	地域の歴史・文化に多くの市民が興味や関心を持ち、歴史文化の継承がされるよう文化振興と文化財の有効活用を図ります。			
施策目標の実現 に向けた取組	（１）文化資源の保護と活用 ○市民の歴史や文化に対する意識の高揚を図るとともに、市民や関連団体との協働により更なる歴史文化の継承と文化活動を推進します。 ○地域の歴史を知る上で重要な文化財の調査及び記録保存を行い、展示や報告書の刊行、学習講座の実施などを通じてそれらの成果を発信します。 ○小中学校と連携し、文化財資料を活用した地域学習を推進します。 ○お囃子などの地域の無形民俗文化財の継承のため、保存会の活動を支援します。 ○市内にある有形文化財等、地域の文化資源を社会教育や観光などで有効活用を図ります。			

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標1	指標名	歴史文化に係る学習講座への参加人数					
		説明	歴史文化に係る学習講座などに参加した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため。 【令和5年度実績について】大井郷土資料館の移転に伴う9月・10月の休館による実績減。					
		単位	人					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
		実績値	1,221	1,967	1,313	1,574	2,364	1,867
	指標2	指標名	展示への来場者数					
		説明	展示会に来場した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため。 【令和5年度実績について】大井郷土資料館の移転に伴う9月・10月の休館による実績減。					
		単位	人					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900
		実績値	7,082	6,581	9,253	11,339	13,046	6,542
	指標3	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標4	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標5	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	26,058	29,245	47,964	37,421	44,092	84,613
	人件費	113,989	120,453	133,571	134,748	129,095	126,659
収入	特定財源	6,983	10,666	10,349	13,801	16,823	7,221
	一般財源	133,064	139,032	171,186	158,368	156,364	204,051

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	展示や学習講座の開催	特別展「徳川家康がやってきた～ふじみ野市の江戸時代のはじまり～」、記念講座「徳川家康と鷹狩」等を開催した。	地域の歴史を知ってもらうための情報発信により、市民に市の歴史を理解してもらえる機会を提供できた。 小学校3・4年生対象とした「昔のくらしと昔の学校」の展示では、社会科授業の一環として有効活用を図れた。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部
取組②	地域学習の推進	学校で地域の歴史や民具を活用した体験学習が行えるよう、学校文化財展示室を文化財展示ボランティアと協働で設置した。	学校文化財展示室を駒西小に新設し、既設のさぎの森小、東台小、西原小での活用を進めた。これらの展示室では、授業での活用や市民ボランティアによる一般市民向けの展示解説・地域学習講座を開催し、地域の文化資源を有効活用することができた。	文化財展示室設置・活用事業の一部
取組③	地域の文化資源の有効活用	市指定文化財回漕問屋福田屋（福岡河岸記念館）や国登録有形文化財旧大井村役場等の文化資源を活用した特別公開を開催。回漕問屋福田屋特別公開12回。旧大井村役場を令和5年10月から常時公開。やさしい日本語でめぐるまちさんぽツアー事業を実施。	特別公開と同時に資源を活かしたコンサート、古典芸能の公演、お話し会、裂き織、簞作り、水引の体験学習を開催し、文化財にふれる事業が行うことができた。参加者からも好評であった（アンケート回答）。まちさんぽツアー事業は外国人への情報発信につながった。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部 資料館の協力による文化財保護係の文化財保護事業の一部
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	文化資料の有効な活用を図る目的で、平成29年度の改修工事で構造強化を行った福岡河岸記念館の三階建て離れや旧大井村役場を利用した体験学習、コンサート、古典芸能の公演を行った。 また、学校の教室を利用した展示室を開設するにあたり、資料館の収蔵品である地域の民具や土器を有効活用した体験学習ができるように設置した。これらの活動は学校、保護者、子どもたち、参加したボランティアからの評価も好評で、継続して有効活用を図っていききたい。 また、市民ボランティアの協力を得てこれらの展示室開設準備や、福岡河岸記念館の特別公開を行うことができたことから、今後も文化財に対する市民の理解者を増やし、ボランティアの拡充を進めていきたい。 平成31年4月1日施行の文化財保護法の改正では、地域の文化資源の保存と活用の推進がうたわれているので、引き続き文化資源の有効活用を推進していく。
順調	
行政資源の活用	
おおむね適切	
取組の有効性	
おおむね有効	
施策の効果	
効果が得られている	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		文化財保護事業	前年度の方向性	
			継続	
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	木村裕之
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市文化財保存事業補助金交付要綱、ふじみ野市文化財保護審議会に関する規則		
事務事業の内容	事務事業の目的	市域に残された文化財を後世まで永く伝えるとともに市民が文化財への理解を深めるための一助とする。		
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）に基づいて事業を実施している。		
	事務事業の概要	文化財を次世代に継承していくため、文化財の保護・保存及び普及・啓発事業を実施する。 1 文化財保護審議会の開催（年4回）：補助金審査及び市指定文化財の諮問、答申を行う。 2 文化財保存事業補助金の交付：市指定文化財5件、文化財保護団体等2件に補助金を交付する。 3 市指定文化財管理事業：民間・個人等管理の市指定文化財20件に対し管理謝礼を支払う。川崎遺跡古墳墳時代住居跡・復元大井戸・権現山古墳群については業務委託により清掃、修繕等を実施する。 4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業：文化財に触れる機会を作るために体験学習事業等を行う。 5 小学校文化財展示室設置：児童が文化財に親しむ環境を作るために順次各校に展示室を設置する。		
	令和5年度の主な取組	市指定文化財阿弥陀如来像修理事業への補助金交付：表面の剥離止め等の修理に伴い事業費を補助 市指定文化財「元三福学校校舎」の指定解除 福岡河岸記念館・旧大井村役場活用事業：福岡河岸記念館 4 回開催31人参加、旧大井村役場3回開催 30人参加 やさしい日本語まちさんぽツアーガイド：5月と12月に参加者を募集しツアーガイドを実施。ガイドのスキルアップをめざした研修会の開催、外国人とガイドと交流の場としての日本語カフェの開催など		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	2.00	2.00	2.00
		人件費	15,930	15,846	15,846
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	人件費計		15,930	15,846	15,846
事業費	報酬※		84	204	252
	賃金※		0	0	0
	需用費		692	151	303
	委託料		3,034	1,787	770
	使用料及び賃借料		0	1	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		496	493	262
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		905	499	690
支出合計			21,141	18,981	18,123
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	1,900	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	98
	一般財源		19,241	18,981	18,025
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			169	166	154

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	指定・登録文化財の件数		
	説明	指定・登録文化財の所在数は、市の文化財保護行政の取組みの度合いを示すバロメーターである。最新の文化財指定は、平成31年1月23日指定の「ハケ遺跡古墳群1号墳出土埴輪」（人物埴輪7点）である。令和5年度は元三福学校校舎の指定解除を行った。		
活動	単位	件		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	57	58	58
	実績値	57	56	
指標 2	指標名	民俗芸能調査及び民俗文化財の保存事業補助団体件数		
	説明	囃子などの市内に残る伝統芸能の現況調査や民俗芸能保持団体への事業補助を行った件数により民俗文化財保護の取り組みの指標とする。令和5年度は、祭礼の再開もあって、活動も活発化し、補助を行った団体数は5団体となった。		
活動	単位	件		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	6	6	6
	実績値	2	5	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	1 やさしい日本語でめぐるまちさんぽツアーの実施 在住外国人や子ども達に地域の文化財・産業・観光資源等の魅力をやさしい日本語でわかりやすく伝え郷土への愛着を深めるとともに情報の発信に努めた。令和4年度ツアーガイド養成講座参加者のうち12名がガイドボランティアとして活動を継続し、5月6日と12月10日にまちさんぽツアーを企画・運営をした。日本語を母語としない方たちとの交流を深めるとともに、地域の歴史や日本の文化に触れていただく機会となった。 2 指定文化財の管理 市指定文化財56件のうち民間・個人等所有の20件に対し管理費謝礼の支払い及び囃子保存会4件、文化財保護団体2件に対し補助金交付事業を行った。特に令和5年度は市指定文化財「阿弥陀如来像」（安楽寺蔵）の修繕事業に対する補助を行った。表面の剥離止めや像のゆがみを修正するなどの措置を施し、文化財の保存へつなげることができた。 3 文化財普及啓発 市広報への「歴史さんぽ」連載。「文化財だより」10月と2月に発行した。 福岡中央公園に陸軍用地の境杭の移設と案内板を設置し、戦時中に陸軍造兵廠という弾薬工場があったことを伝える一助となった。 4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業 はたおり・ほうきづくり・水引等の体験学習を実施した。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	先人たちが大切に保存、継承してきた文化財は市民の宝であり、新たな文化創造の土台になるもので、地域の文化財を次世代に継承していくための保存事業だけでなく、文化財を知ってもらうための情報発信を継続していく必要がある。令和5年度は、ボランティアガイドが母語が日本語でない方を対象に、「やさしい日本語でめぐるまちさんぽツアー」を企画・運営し、事業を展開することができた。福岡河岸記念館や旧大井村役場を会場に実施している体験学習とともに、市民を対象にした事業として継続していく。 ふじみ野市文化財保存活用地域計画の策定を進めるとともに、あわせて資料館のリニューアル、旧江戸屋の整備、権現山古墳群史跡の森の整備などの計画づくりも進めていく必要がある。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		埋蔵文化財調査事業		前年度の方向性
				継続
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	木村裕之
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱		
事務事業の内容	事務事業の 目的	市域に残る埋蔵文化財の記録保存を行う。遺跡情報システムを運用することにより、市民への普及及び窓口業務等に活用する。		
	事務事業の 経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例・ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）及びふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。		
	事務事業の 概要	1 文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の記録保存調査を行う。 2 市民への埋蔵文化財の情報提供及び窓口業務対応のため、市内遺跡・文化財情報システムの運用。地図頒布、チラシ頒布等サービスの向上をはかる。報告書の刊行・展示公開等により調査成果の公開、出土品の活用を図る。		
	令和5年度の 主な取組	1 埋蔵文化財包蔵地照会対応、発掘調査を実施した。 調査の流れや手続きについて明記したチラシを作成し、窓口で配布した。 2 調査報告書『市内遺跡群28』を刊行した。 3 最新出土品展を開催した。 4 遺跡情報システムの情報更新（発掘調査測量図の更新、指定文化財情報の追加）を行った。 5 遺跡地図の有償頒布を行った。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	1.30	1.30
		人件費	10,355	10,300	10,300
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	11.02	7.91	11.02
		人件費	15,008	14,899	25,580
人件費計			25,363	25,199	35,880
事業費	報酬※		14,499	14,336	23,266
	賃金※		0	0	0
	需用費		1,018	1,722	1,794
	委託料		1,053	1,967	1,479
	使用料及び賃借料		3,724	3,779	9,690
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		3,256	3,278	5,356
支出合計			33,905	35,382	51,885
財源内訳	特定財源	国庫支出金	4,920	3,600	4,500
		県支出金	1,710	1,800	2,250
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	53
	一般財源		27,275	29,982	45,082
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			239	263	384

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	開発に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地への照会件数		
	説明	周知の埋蔵文化財包蔵地とその隣接地及び1,000㎡以上の大規模開発に伴い、施工主等の関係者からの問い合わせに対して行う。		
活動	単位	件		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	1,200	1,200	1,200
	実績値	1,642	1,567	
指標 2	指標名	本調査・試掘・立会い件数		
	説明	埋蔵文化財保護の記録保存、埋蔵文化財包蔵地範囲確認のために本調査・試掘・立会いを実施。		
活動	単位	件		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	50	50	50
	実績値	72	88	
指標 3	指標名	市内遺跡・文化財情報システムへのアクセス数		
	説明	※令和4年度からの新規指標 ホームページで公開している市内遺跡・文化財情報システムへのアクセス数は市民の文化財への関心度と情報の提供数を示すもので情報公開の指標となる		
活動	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	12,000	12,000	12,000
	実績値	11,183	18,876	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	開発に伴う事前照会、事前協議書・発掘の届出書の提出を受け、試掘調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査、工事立会などを行っている。これらの調査成果を報告書・情報システム等で公開することにより、文化財保護の啓発や発掘調査に対する理解へつなげることができる。
	1 発掘調査の実績概要（令和6年3月21日現在） ①窓口・電話等による包蔵地照会は1,567件だった。照会時には必要に応じて調査の流れ等を記載したフローチャートを配布し、埋蔵文化財の重要性と調査の必要性、調査手順を周知することができた。 ②令和5年度の調査実績は、試掘調査が33件、本調査が4件、工事立会が51件であった。 ③埋蔵文化財包蔵地を示した遺跡地図を有償頒布（1部300円）し、普及に努めた。 ④令和4年度調査の報告書『市内遺跡群28』を刊行し、記録保存・調査成果の公開ができた。 2埋蔵文化財の活用 ①「最新出土品展」を大井郷土資料館と上福岡歴史民俗資料館で開催し、調査により出土した遺物を公開した。埋蔵文化財の重要性とその調査の必要性を周知することができた。 ②地理情報システムを利用して構築した「遺跡・文化財情報システム」については、令和5年度も更新分構築業務を業務委託し、埋蔵文化財調査成果・発掘調査測量図の情報を更新した。 ③上福岡歴史民俗資料館企画展「ふじみ野に馬がいた！？～ふじみ野のまぼろしの牧をさぐる～」に土器等を出品した。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。発掘調査の実施に当たっては、工事主体者等に対して十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むように調整する必要がある。また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開、遺物等の展示公開を行うことで、市民の埋蔵文化財への理解を深めていく。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		権現山古墳群保存管理事業		前年度の方向性
				継続
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	木村裕之
事務事業期間		平成17年度～随行	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例		
事務事業の内容	事務事業の 目的	平成14年3月に作成した権現山墳墓群保存管理計画に基づき、埼玉県指定史跡権現山古墳群の保全及び活用を図る。		
	事務事業の 経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例に基づいて事業に着手している。平成14年3月22日に県指定史跡に指定され、平成15年度から県費補助を受けて整備事業を実施し、平成22年11月1日から公有地部分の一般開放を実施している。		
	事務事業の 概要	県指定史跡権現山古墳群の保存管理及び活用事業を実施する。 市内滝地区の新河岸川沿いにある権現山遺跡は、3世紀後半から4世紀初頭に造られ、前方後方墳1基と方墳11基の古墳からなっている。墳丘が現存する希少な初期古墳群であり、古墳文化の波及状況を示す上で学術的に重要な遺跡であるとして、遺構が良好に残存する6基の古墳と出土土器7点が平成14年3月22日に埼玉県指定史跡に指定された。 古墳に張り巡らされた溝から出土した壺や高坏は、葬送儀礼に用いられ、古墳の年代を判断する上で手がかりとなる。これらは現在、上福岡歴史民俗資料館に常設展示され、郷土史の一端を伝えている。		
	令和5年度の 主な取組	1 管理計画に基づき、敷地内の伐採・剪定作業を実施。 2 令和4年度に続き、敷地内の木柵修繕を実施。 3 市民ボランティア団体「権現山くらぶ」と協働し、会員による定期的な清掃活動の実施や一般市民を募集し、落ち葉掃きを実施。 4 権現山古墳群に親しんでいただくため子ども対象「夏休み権現山探検」「自然観察会」等を実施。 5 ナラ枯れ被害による樹木の倒木、折れ枝の危険を未然に防ぐために計画的な伐採作業を実施。地域の自治会へナラ枯れ被害とその対応、今後の予定などについて説明会を実施。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.60	0.60	0.60
		人件費	4,779	4,754	4,754
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	人件費計		4,779	4,754	4,754
事業費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		1,301	2,380	3,023
	委託料		5,611	4,738	1,171
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		19	0	24
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		0	33	0
支出合計			11,710	11,905	8,972
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	643	1,184	1,500
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		11,067	10,721	7,472
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			97	94	64

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	見学会開催及び団体見学		
	説明	一般開放への入場者は現地でカウントすることが困難なため、小学校等の団体見学や市主催の見学会及び展示等の回数をもって、市民・関係者による活用の度合いを算出する。		
活動	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	3	3	3
	実績値	0	2	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	1 公有地部分の一般開放（平成22年11月1日～） ナラ枯れの被害木伐採と木柵修繕を、1月31日～2月15日及び3月13日～25日まで閉鎖し、実施した。 2 管理及び教育普及事業 (1) 清掃・除草・剪定・補修等 ① 指定文化財清掃委託事業として、草むしり、ゴミ拾い、落葉清掃を実施した。 ② ナラ枯れ被害木等45本の伐採と、2本の樹木剪定を業者に委託し実施した。 ③ 古墳への立入禁止を示す木柵が経年劣化による破損が増えてきたため、3か年事業として県の補助を受けて修繕を実施（3年目）。令和5年度は市道北側及び南側の木柵を補修した。 ④ 園路内に設置した木製ベンチが腐朽により倒壊したため、県の補助を受けて3基の再設置を実施した。 ⑤ 園内に設置した解説板2基の修繕を実施した。 (2) カラーリーフレットの配布 平成24年2月から職員手作りによるリーフレットを作成し・配布している。 (3) 市民ボランティアとの協働活動 市民対象事業への補助。 (4) 市民対象事業の実施 ① 夏休み権現山探検「土の中のいきものをさがそう」（8月2日実施）参加者10人 ② 新河岸川周辺の文化財と地形散策（令和4年度事業を雨天により4月22日に延期・実施）参加者11人
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	県指定史跡を含む権現山古墳群の古墳と自然を後世に伝えていくため、経年劣化による破損や腐朽が進んでいる園路の側木等の計画的な整備や、樹木の管理・育成を実施していく。 徳川家康鷹狩伝説のある市指定文化財権現山と県指定史跡権現山古墳群の周知のための活動を行い、より一層多くの方に足を運んでもらうよう公開や活用事業を展開していく。
中長期的方向性	また、後世に伝えていくためには、市民の文化財愛護意識が重要であるため、権現山古墳群の保存、公開、活用を通じて文化財ボランティアの更なる増員を図っていく。
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		民間開発発掘調査事業	前年度の方向性	
			継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	木村裕之
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱		
事務事業の内容	事務事業の目的	市域の開発工事に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施することにより、文化財の記録保存を行う。		
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例・ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。		
	事務事業の概要	民間開発発掘調査事業は、業者・個人が建売・集合住宅建設、店舗建設など営利を目的とした開発を行う際に、試掘調査を経て市と関係者が協議し、開発行為により遺跡保存ができない場合に原因者負担と言う形で調査を実施する。その成果は報告書の作成・刊行により原因者に報告するとともに、遺構等の記録保存と後世への普及・伝達を図ることができる。 発掘・整理（遺物整理等及び報告書刊行）を複数年度で実施するため、発掘調査開始時に契約書を原因者と作成し、市が原因者から調査委託されるという形で契約を締結する。埋蔵文化財調査事業と同様に、市民・開発業者に埋蔵文化財の重要性和その必要性の周知と教育普及を行う。		
	令和5年度の主な取組	令和6年3月31日現在、令和5年度提出された事前協議書88件、発掘届出99件の内、民間開発発掘調査を実施したのは3件だった。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.55	0.50	0.55
		人件費	4,381	3,962	4,358
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	6.25	0.10	6.25
		人件費	1,245	183	13,235
人件費計			5,626	4,145	17,593
事業費	報酬※		1,221	180	13,084
	賃金※		0	0	0
	需用費		79	49	1,059
	委託料		0	0	2,595
	使用料及び賃借料		523	275	5,264
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
その他事業費※			35	3	771
支出合計			6,239	4,469	27,131
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	1,858	508	22,773
	一般財源		4,381	3,961	4,358
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			38	35	37

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	民間開発発掘調査・整理の件数		
	説明	民間開発による文化財破壊を防ぎ、市民・関係者の理解・協力により文化財保護を達成できた指標として設定した。令和5年度実績が4件であった。		
活動	単位	件		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	1	1	2
	実績値	4	4	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	発掘調査の実績概要及び民間開発調査実施状況		
	1 令和5年度の届出収受、調査等の件数 (1) 事前協議書の収受 88件 (2) 試掘調査実施 33件 (3) 本調査実施 4件（個人住宅1件、民間開発3件） (4) 工事立会済 51件（1,000㎡以上開発、埋蔵文化財隣接地含む） (5) 令和4年度からの繰越 15件 (6) 令和6年度への繰越 19件 (7) 発掘届の収受 99件 対応①発掘調査（工事等で埋蔵文化財が破壊される場合等）3件 ②慎重工事（試掘調査のみで埋蔵文化財が確認されなかった場合、本調査終了済等）44件 ③工事立会（工事等で埋蔵文化財への保護層が確保される場合等）48件 ④その他（無届開発による始末書、次年度繰越等）4件		
	2 民間開発発掘調査の実施状況		
	(1) 発掘調査実施 合計3件 ①北野遺跡第61地点（本発掘調査契約期間 令和5年9月6日～15日） ②駒林遺跡第47地点（本発掘調査契約期間 令和5年11月22日～12月15日） ③駒林遺跡第48地点（本発掘調査契約期間 令和6年2月5日～15日） (2) 整理作業実施及び報告書「市内遺跡群28」刊行 合計4件 ①北野遺跡第61地点（令和5年度発掘調査） ②駒林遺跡第47地点（令和5年度発掘調査） ③駒林遺跡第48地点（令和5年度発掘調査） ④長宮遺跡第62地点（令和4年度発掘調査）		

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。民間開発による発掘調査の費用は工事主体者側が負担することから、今後も工事主体者に対し十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むようにしていく必要がある。 また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開を行っていく。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館管理運営事業		前年度の方向性
				継続
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費		
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館	評価責任者	井上 樹朗
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則		
事務事業の内容	事務事業の 目的	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、旧上福岡地域の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多くの市民に知ってもらうよう展示公開するための施設整備、維持管理を行う。		
	事務事業の 経緯	開館以来、市民の郷土に関する教育、学術及び文化の発展に寄与するため、歴史・民俗を紹介することを通して、先人が育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集し・保存すると共に、これらの資料を多くのの方々に知っていただくように展示公開するための施設の維持管理に務めてきた。		
	事務事業の 概要	上福岡歴史民俗資料館の施設維持、管理及び開館業務		
	令和5年度の 主な取組	資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を開催した。来館者の安全安心の観点から、良好な利用環境を整備するために資料館施設管理を包括管理業者と連携を図りながら実施した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.90	2.00	2.10
		人件費	15,134	15,846	16,639
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	528	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			15,662	15,846	16,639
事業費	報酬※		48	48	48
	賃金※		0	0	0
	需用費		5,882	1,117	1,274
	委託料		1,379	969	1,141
	使用料及び賃借料		53	76	138
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		24	24	24
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		168	169	231
支出合計			23,216	18,249	19,495
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	2	0	3
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	7	0	5
	一般財源		23,207	18,249	19,487
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			203	160	166

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者の拡大		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い、地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。 (集計中)		
活動	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	4,700	4,700	4,750
	実績値	3,175	3,828	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を設置している。委員は校長、小中学校社会科教諭、文化財保護審議委員、資料館活動団体、学識経験者など多方面の委員で構成されていることから幅の広い意見をいただいております、更なる運営向上につながるものと考えています。 令和5年度は、5月・10月・2月の合計3回資料館運営協議会会議を開催し、事業計画及び事業報告の承認をいただいた。 来館者の安全安心を視点に資料館施設管理を包括管理業者と連携して実施した。 以上のような施設の適切な運営を通して、多くの方々が安心して来館でき、快適に見学できるよう対応することにより、来館者の増加につながると考える。
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、ふじみ野市の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多く市民に知ってもらうよう展示公開し、地域への愛着を深めるものである。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館教育普及事業		前年度の方向性
				継続
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費		
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館	評価責任者	井上 樹朗
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則		
事務事業の内容	事務事業の 目的	市民から寄贈された貴重な文化遺産を保存し、地域の特色を意識した資料収集を行い、資料の調査研究の成果を常設展示及び特別展・企画展、学習講座を実施することにより、紹介、活用する。また必要に応じて成果の一部を図録等の刊行物にまとめて展示成果の追体験が行えるようにする。		
	事務事業の 経緯	歴史や郷土史、文化財への関心をもつ市民の学習ニーズに応えるために講座・体験学習及び特定のテーマを決めて展示会を実施している。内部講師の活用や資料館利用団体との協働事業の開催、特別展の会場を大井郷土資料館とする事業分担等により経費削減を図るとともに、「ふじみ野市」の資料館としての役割の再構築を試みている。		
	事務事業の 概要	市の歴史・民俗のなかでも、新河岸川を展示主題においた常設展示を行うとともに、テーマを設けて、実物資料や写真パネルなどで構成する特別展・企画展等を開催することで、これまでの調査研究の成果を紹介する。市民対象の学習講座・体験学習等の実施及び市民から提供された貴重な資料の収集整理を実施する。		
	令和5年度の 主な取組	①市の歴史、考古、民俗などでテーマを設けて企画展を開催する。 ②郷土に伝わる伝承遊びや藍染、はたおりなどの体験学習、小学校3年生向け「昔の暮らし」についての展示を行い資料を活用した体験学習などを実施する。 ③収蔵資料の保存作業として、寄贈資料の整理、台帳作成及びデータ入力などを行う。 ④収蔵資料を利用して季節や行事にちなんだミニ展示を行う。 ⑤企画展などの展示内容をインターネット上のホームページなどで公開し、来館者以外の方にも広く情報の発信を行う。 ⑥大井郷土資料館から資料の一部を上福岡歴史民俗資料館に移設して展示の一部リニューアルを図る。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	0.90	1.00
		人件費	8,762	7,131	7,923
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	528	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.66	0.67	0.61
		人件費	1,182	1,194	1,225
人件費計			10,472	8,325	9,148
事業費	報酬※		1,168	1,194	1,287
	賃金※		0	0	0
	需用費		148	125	148
	委託料		0	0	0
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		221	248	284
支出合計			10,827	8,698	9,642
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	1,536	0	217
	一般財源		9,291	8,698	9,425
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			81	76	80

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	記念館を含めた展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えられる。また、普段非公開の河岸記念館「離れ」の特別公開日及び季節展示、ミニ展示を含む。		
活動	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	22	25	26
	実績値	25	25	
指標 2	指標名	講座、体験学習の満足度		
	説明	講座参加者のアンケートによる内容への満足度と開催時間の満足度（ちょうどよい）を指標とする。内容80%以上×時間80%以上を5点、70%以上×70%以上と85%以上×60%以上、時間不明の満足度70%以上～90%未満、時間の満足度75%以上で不満度20%未満を4点、70%×55%を3点、55%×70%を2点、55%×55%を1点とする。		
成果	単位	点		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	28	36	36
	実績値	36	32	
指標 3	指標名	講座等の参加人数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化や文化財への関心を深めていただくために特別展記念講演会を中心に各種学習講座を開催している。参加人数は教育普及事業の効果を示す有効な指標になると考える。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	850	850	850
	実績値	1,203	995	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	1 展示事業 (1) 上福岡歴史民俗資料館企画展及び資料館特別展（会場：2階ホール） 企画展3回、夏季の戦争関連展示1回、大井資料館との巡回展示「最新出土品展」を実施した。 (2) ミニ展示 企画展の合間に小規模な資料展示等を3回実施（うち特別展の縮小版出張展示含む。）
	2 教育普及事業 (1) 学社連携事業として、小学校3・4年生対象社会科体験学習及び展示「昔のくらしと昔の学校」（会期：1/13～2/29）を実施し、2月末日まで4校の受け入れと、2校の出前授業を行った。 (2) 成人対象体験学習を年1回（藍染め）、子ども対象体験学習を年3回（郷土の伝承あそび「竹とんぼづくり」、「たこを作って展示しよう」、ダンボールをつかったはたおり）を行った。 (3) 上福岡歴史民俗資料館友の会との相互協力、資料館文化財ボランティアの運営、出前講座等を実施した。 (4) 資料館通信を1回刊行し、事業内容の周知、普及に努めた（後述）。 (5) 学芸員実習の学生と協力して作成した企画展示の動画及び文化財資料館ボランティアと協力して作成した民具の使用法の動画を配信中である。
	3 資料保存活動 年間を通し寄贈資料の受け入れ、登録及び資料整理を行い、収蔵資料のデータベース化を進めた。 生活困窮者就労準備支援事業の協力として収蔵資料のデータ入力作業を依頼した。 上記1～2の事業を通して、郷土の歴史に対する理解を深める機会を提供するとともに、資料の公開及び活用を進めた。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する企画展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。今後も「郷土ふじみ野」を市民に再認識・再発見してもらうための重要な機会として継続する。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		文化財展示室設置・活用事業		前年度の方向性
				拡充
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費		
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館	評価責任者	井上 樹朗
事務事業期間		平成28年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		教育基本法、文化財保護法、学校教育法、社会教育法、博物館法、小学校学習指導要領 ふじみ野市資料館の資料に関する規則 ふじみ野市教育振興基本計画		
事務 事業 の 内 容	事務事業の 目的	上福岡歴史民俗資料館や大井郷土資料館などで収集・保存してきた歴史資料は、地域にとって貴重な文化財である。そうした文化財を活用して、ふじみ野市、学校、地域住民が協働しながら、郷土ふじみ野を理解し郷土を愛する市民の育成をはかる。		
	事務事業の 経緯	市内の小学校には、30年ほど前から地域住民の協力によって収集された資料を活用した展示室がいくつか設置されている。教材への活用や地域の文化財としての関心や理解はあるが、資料の破損や解説の不備などから十分に活用されているとは言えない。そこで、体験学習を取り入れた展示を目指すため、展示室の再構築や新規設置に努めている。		
	事務事業の 概要	市内各小中学校の教室や有効スペースに、既存の資料や上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館などで収集・保存してきた資料を有効活用して文化財展示室の設置や文化財資料の展示をする。設置にあたっては学校、社会教育課（資料館・文化財保護係）、地域住民（以下文化財展示室ボランティア）が協働で行う。児童や教師が広く学習の場として活用するだけでなく、将来的には一般市民への公開・活用も視野に進める。		
	令和5年度の 主な取組	4～6月に駒西小学校文化財展示室の設置作業を完成し、8月9日（水）午後に駒西小学校にて学校運営協議会、文化財資料館ボランティア、ほうきの会他市民有志を集めて内覧会を行った。12月からさぎの森小展示室の復旧作業に取りかかり、現在進行中である。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人 件 費	正規職員	従事人数(人)	0.70	0.75	1.00
		人件費	5,576	5,943	7,923
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	528	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			6,104	5,943	7,923
事 業 費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		101	63	103
	委託料		0	0	0
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		27	14	51
支出合計			6,232	6,020	8,077
財 源 内 訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	77	129	0
	一般財源		6,155	5,891	8,077
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			54	52	69

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	文化財展示室・文化財展示設備の設置数		
	説明	文化財展示室・文化財展示設備の設置作業を実施した小・中学校数が学校、地域住民（文化財展示室ボランティア）、社会教育課（資料館など）による地域協働学校事業の指標となるため		
活動	単位	校		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	1	1	1
	実績値	1	1	
指標 2	指標名	ボランティア参加人数(令和4年度まで目標値未入力)		
	説明	文化財展示室ボランティアへの参加人数が地域協働学校の活動や郷土ふじみ野を理解する市民の育成をはかる指標となるため。ただし令和6年度以降設置の見込みがないので成果指標としては要検討。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	0	30	25
	実績値	58	28	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	今年度の実施内容 1. 駒西小学校文化財展示室 駒西小学校の文化財展示室設置作業を4月25日（火）、5月16日（火）、23日（火）にボランティアの協力で行い、5月30日（火）に完成して、8月9日（水）に内覧会を行った。駒西小の学校運営協議会、ほうきづくりの会、資料館文化財ボランティア、一般市民合計13名（教員除く）が参加した。 2. さぎの森小学校文化財展示室 11月28日（火）から展示の復旧作業を開始し、3月末まで9回にわたって作業を行った。農事暦の部分がほぼ完成し、縄文住居復元と和室のふすまをいれるしきい組み物を作成中である。
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市内の各小学校に文化財展示室の設置を進めるとともに、文化財展示ボランティアや地域住民と協働で小学生への授業などへの活用と広く公開を目指していく。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館管理運営事業		前年度の方向性	
				継続	
重点プロジェクト					
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	井上 樹朗
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則			
事務事業の内容	事務事業の 目的	資料館を通して、地域の歴史に密接した資料を収集・保存し、多くの市民に展示公開する。			
	事務事業の 経緯	市民の学習・憩いの場として昭和63年に開館。当該管理運営業務は、常設展示室、郷土学習室、事務室、資料室の維持管理を主な業務としている。平成25年度からは学芸係長を配置し、展示、資料の問合せ等の対応を図っている。令和5年度の大井郷土資料館常駐の職員は、管理係2名、学芸係3名である。			
	事務事業の 概要	常設展示室は、移転前の大井郷土資料館で開館当初から原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示を行っていたが、10月からは、展示室を旧大井村役場に移転し、特別展及び季節展示等についても随時継続して実施していく予定である。			
	令和5年度の 主な取組	大井郷土資料館は、開館以来約30年が経過しており、以前にも増して目視による日常点検を常に実施した。令和5年度からは、包括管理業務の導入により担当と職員によって緊急時における対応を行ない、施設の保全に努めた。また、移転先である旧商工会館の改修工事終了に伴い、保管してあった収蔵資料の引越し作業を終了し、新資料館のリニューアルオープン時まで資料館として使用していく予定。旧大井村役場については、10月から郷土の教育普及活動の拠点として建物内の一般公開を行なうようになり、新しく電話機や照明の設置をし、委託における受付業務を行うようになった。その他に職員や包括管理業務によって緊急時における対応を行ない文化財建造物の保全に努めた。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.30	1.86	1.90
		人件費	10,355	14,737	15,054
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	528	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			10,883	14,737	15,054
事業費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		1,038	5,800	6,022
	委託料		4,174	7,295	27,429
	使用料及び賃借料		43	118	56
	工事請負費		0	40,921	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		39	1,790	330
支出合計			16,177	70,661	48,891
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	6
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	3,857	0	0
		その他	2	0	295
	一般財源		12,318	70,661	48,590
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			108	619	414

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者数の増加		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。令和3年度からの入館者の増加は、図書館利用者数の10%を資料館入館者数としてカウントする方法から入館チャイムの職員カウントと図書館利用者数の中間値を入館者とする方法に切り替えたことによる。		
活動	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	8,200	8,200	8,200
	実績値	11,588	5,520	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	大井郷土資料館では次の管理運営事業を実施した。 (1) 資料館の建物は建築後30年以上が経過して老朽化していた。事務室の設備や展示設備も傷んでおり全体的に経年劣化が原因となり施設管理を担当する大井図書館（指定管理者）と連携して、館内環境を改善し、展示資料観覧環境の向上をおこなっていたが、今年度より新たな資料館開館に向けて大井郷土資料館大規模改修工事設計業務を委託した。令和5年度から移転した大井郷土資料館においては旧商工会館の改修が終了し電話回線工事や旧大井郷土資料館に保管してあった収蔵資料の引越しを行い、新たな大井郷土資料館のリニューアルオープンまで使用していく予定である。 (2) 国登録有形文化財旧大井村役場庁舎については、建築後80年以上が経過し、平成17年度・平成29年度に改修工事を実施したが、経年劣化は進行している。令和5年度においては、大井郷郷土の資料の保存と教育普及活動の拠点として利用する為、建物内の改修を実施し委託における受付業務を行うようになった。その他に職員や包括管理業務によって建物内外の確認をおこない損傷が著しい箇所を事前に確認し、応急措置対応を行ない文化財建造物の保護に努めた。これらの改善により、来館者が文化財に親しみながら気持ちよく使用していただく環境が整った。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	常設展示室は、開館当初に原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示するように設計されており、それぞれの時代にあった収蔵資料を随時展示している。また、特別展及び季節展示等を開催している。これらは地域の歴史や暮らしを理解するにあたり重要な役割を持つと共に、地域への愛着を深めるものである。令和5年度の10月からは、展示室を旧大井村役場に移転し、特別展及び季節展示等についても随時継続して実施し、旧大井郷土資料館に保管してあった資料については、旧商工会館に収蔵し、保管庫として利用していく予定である。
中長期的方向性	
継続	旧大井村役場は国登録有形文化財として貴重な建造物であるとともに、市民団体の活用スペースとして整備されてきたので、建造物の文化財としての保護と活用を両立させた管理が必要になっている。

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		収蔵資料整理事務	前年度の方向性	
			継続	
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ―歴史文化の継承と文化財の活用を進めます―		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費		
所管部課		教育部 大井郷土資料館	評価責任者	井上 樹朗
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則		
事務事業の内容	事務事業の 目的	郷土の歴史に関わる資料を収集し、それを展示等の教育普及事業でも活用できるように整理していく。		
	事務事業の 経緯	ふじみ野市資料館条例第3条に資料館の業務の一つとして「市の歴史、考古、民俗等に関する資料の収集、保存及び調査研究に関すること」が謳われている。これを受けて資料館は開館以来資料の収集、保存及び調査を行っている。		
	事務事業の 概要	大島家収蔵資料等の諸家文書の整理を行う。 収集資料を紙の台帳に手書きで登録しているが、台帳整理と資料活用の効率化を図るため、収蔵事業のデータ化を進める。		
	令和5年度の 主な取組	令和5年9月1日より11月30日にかけて、大井郷土資料館の全面移転作業を実施した。 旧大井郷土資料館に収蔵されている民具をはじめとして文書資料のすべてを大井郷土資料館(旧商工会館)へ移動、収蔵した。 大井郷土資料館(旧商工会館)への移送に当たっては、移送に耐えられる梱包を行い、かつ令和8年の再移転を考慮し、3年間の保管と再移送できるように収納している。 また、棚卸作業を同時に実施し、未登録資料の登録作業も並行して行っている。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	0.95	1.30
		人件費	8,762	7,527	10,300
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	528	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	1.27	1.57	1.27
		人件費	2,424	3,737	2,845
人件費計			11,714	11,264	13,145
事業費	報酬※		2,417	3,381	3,142
	賃金※		0	0	0
	需用費		74	656	132
	委託料		0	0	0
	使用料及び賃借料		0	112	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		182	201	130
支出合計			11,963	11,877	13,704
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		11,963	11,877	13,704
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			105	104	117

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	収蔵資料のデータベース化		
	説明	資料検索・利活用の迅速化を図るため、紙の台帳を年度ごとにデータベース化した資料点数を指標とする。		
活動	単位	点		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	400	750	750
	実績値	744	293	
指標 2	指標名	大島慶一郎家寄贈資料分類整理		
	説明	資料整理・公開・目録刊行に向けて仮目録化作業を行った資料点数が指標となるため。 令和4年度で目録原稿を完成した。 令和5年度において、原稿印刷の準備及び公益財団法人政治経済研究所へ寄贈準備を行っている。		
活動	単位	点		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	1 文化財資料の収集及び収蔵資料の整理事業地域の歴史・文化を明らかにするため、文化財資料の収集・調査を行った。令和5年度も貴重な民俗資料及び歴史資料を寄贈していただき、寄贈された資料は台帳に登録し、収蔵庫に大切に保存した。さらに資料の社会教育、学校教育の場での活用を図るため、分類整理を行った上で目録化を進めた。郷土に残る伝承や技術など無形の文化財についても調査、記録化を行い将来への継承を図った。また、資料の調査や整理の成果は、一部資料館通信等でも紹介した。(1)大井郷土資料館令和5年度受け入れ資料、歴史・民俗資料1点。 2 データベース化・デジタル化の推進 紙ベースによる従来からの資料管理では、年々増加する収蔵資料の効率的な対応が難しくなってきた。そこで、収蔵資料台帳のデータベース化を進め、資料に関するデータの修正等を簡易にし、あわせて検索の迅速化など資料の管理と活用の能率化を目指した。令和5年度293点 3 大島家文書分類・整理・目録化 戦後大井地域の歴史、特に地域医療活動を知る上で重要な大島家文書の整理作業を実施している。整理の完了した分は、平成25年度に先行して『大井医院・大島慶一郎関係資料目録Ⅰ』として刊行した。令和4年度は全資料の仮目録を完成し、令和5年度の総合資料目録刊行を行った。大島家文書については、令和6年度に公益財団法人政治経済研究所へ寄贈が決定。14,190点の資料を寄贈することとなっている。 4 文化財展示室設置に向けた資料整理と保管スペースの確保 社会教育課文化財保護係と連携して実施している市内小中学校における文化財展示室設置に向けて、資料館収蔵庫等の資料整理を実施した。5資料館移転作業を実施。令和5年11月30日をもって移転作業を完全に完了した。移転作業に先立ち、重複している蔵書及び重複及び破損等により展示に耐えない収蔵資料の廃棄作業を行い、合計724kgの蔵書及び資料を廃棄している。
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	収蔵資料の整理分類と登録、収蔵、保管は資料館の存在意義に関わる事業である。収蔵資料の整理と保存は、市民への公開（展示）をはじめとする資料の利活用の推進と郷土の歴史・民俗の掘り起こしの基礎となるものであり、今後も継続して推進する。 また、令和8年度実施予定の新資料館への移転作業も継続して行う必要がある。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館教育普及事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館		評価責任者	井上 樹朗
事務事業期間		平成17年度～		評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	地域に関連した収集資料を基に事業展開し、市民に展示すると共に、子どもには体験を通して郷土に対する理解・関心を深めてもらう。			
	事務事業の経緯	ふじみ野市資料館条例第3条第2号には、館の業務として資料の展示及び知識の普及並びに啓発に関することが謳われている。当該事業は、これに基づいて実施しているものである。			
	事務事業の概要	一般〔大人〕向けの事業として古文書講座や展示会等を実施し、子ども対象の事業はこのほりづくり他、上福岡歴史民俗資料館との共通事業で社会科体験学習や郷土の伝承あそびを実施した。 なお、特別展は上福岡歴史民俗資料館と隔年で開催し、平成28年度からは展示スペースの問題から大井郷土資料館を主会場としていたが、令和5年度は移転に伴い、ステラ・ウェストにて特別展、旧大井村役場にて常設展示を実施している。展示成果を図録としてまとめて作成し頒布を行っている。また、資料館文化財ボランティアを運営している。			
	令和5年度の主な取組	展示は特別展「徳川家康がやってきた ～ふじみ野の江戸時代のはじまり～」、「最新出土品展」、ミニ展示・季節展示6回を開催した。特別展記念講演会「家康と鷹狩り」、一般向け学習講座「古文書講座」を開催した。小学校3年生対象社会科体験学習は出前授業を5校実施した。小学校1年生対象「昔のあそび体験」は出前授業を1校実施した。 旧大井村役場にて旧大井村役場活用事業として地域の方々への開放としてピンシャン体操、ライブコンサートを行った。資料館文化財ボランティアの連絡会議を開催し、ボランティアの育成と協働した活動を行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.20	1.00	1.40
		人件費	9,558	7,923	11,093
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	528	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			10,086	7,923	11,093
事業費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		723	599	858
	委託料		496	1,041	500
	使用料及び賃借料		43	93	547
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		203	1,241	318
支出合計			11,551	10,897	13,316
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	123	0	62
	一般財源		11,428	10,897	13,254
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			100	95	113

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えるため		
活動	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	10	5	16
	実績値	12	6	
指標 2	指標名	展示会への来場者数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化、歴史資料に対する意識の高揚を図る指標となるため。 R5年度：ミニ展示も含め展示会開催期間の入館者数を集計した。（開催期間が重複する展示があるため、個々の展示の入館者数の累計では重複が生じるため）R5年度については、9月1日～10月1日まで休館。11月末まで移転作業を行っているため、展示会は12月中旬まで実施していない。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	5,300	2,200	5,300
	実績値	10,356	1,704	
指標 3	指標名	学習講座の参加人数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化や文化財への関心を深めていただくために特別展記念講演会を中心に各種学習講座を開催している。参加人数は教育普及事業の効果を示す有効な指標になると考える。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	850	350	850
	実績値	869	568	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	原始古代から現代を包括する常設展示の他に、下記の事業による教育普及を実施した。 1 展示事業 (1) 特別展「徳川家康がやってきた ～ふじみ野の江戸時代の始まり～」 会期12/13（水）～1/14（日） 会場：ステラ・ウエスト ギャラリー ①記念講演会 「徳川家康と鷹狩」12/23（土）、35人 (2) 企画展 ①巡回企画展「最新出土品展」7/16（土）～8/21（日） (3) 季節展示・ミニ展示 ①季節展示 2回。②ミニ展示 2回 (4) 二市一町フォトコンテスト（ふじみ野市、富士見市、三芳町の各資料館合同企画） 会期：8月1日（火）～8月31日（木） 2 教育普及事業 (1) 博物館学芸員実習 移転作業のため令和5年度受け入れ無し (2) 子ども対象体験学習 2回 (3) 大人向け講座 2回 (4) 資料館文化財ボランティアの運営 3 資料の貸し出し 0件 移転作業があるため、貸出は行っていない。 4 旧大井村役場展示・活用事業 ピンシヤン体操（8月末まで）、旧大井村役場コンサートなどを実施。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する特別展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。 令和5年9月1日より大井郷土資料館移転作業を開始し、11月30日で移転作業を完了した。 令和8年度までは旧大井村役場のみが常設展示室となり、各種事業についてはステラウエスト及び上福岡歴史民俗資料館で実施する必要がある。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡河岸記念館管理運営事業		前年度の方向性
				継続
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費		
所管部課		教育部 福岡河岸記念館		評価責任者 井上 樹朗
事務事業期間		平成17年度～		評価日 令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市立福岡河岸記念館条例、ふじみ野市立福岡河岸記念館条例施行規則		
事務事業の内容	事務事業の 目的	明治期に建築され、当時の商家形態がうかがわれる建築範例として貴重な建物であるため、市有形文化財として指定を受けた建物を市民に公開し、歴史や文化を知ってもらう。		
	事務事業の 経緯	昭和62年、旧福田屋敷地及び指定文化財である建物の所有者から寄贈を受け、復元整備を行い平成8年に福岡河岸記念館として開館した。		
	事務事業の 概要	歴史的建造物である回漕問屋「旧福田屋」を復元し、郷土の歴史と地域の文化について学ぶ場として公開、平成30年度からは「離れ」の2、3階を月1～2回程度の割合で特別公開している。文化財建造物の保護と良好な利用環境を保全するために施設修繕を行っている。		
	令和5年度の 主な取組	例年展開している落語などの特別講座を3回、その他子ども対象事業やフォト・絵画コンテストを開催した。また、企画展の杉戸絵の展示を行い、市内外からの来館者の増加を図った。年間で特別公開を12回、無料公開を2回実施した。文化・スポーツ振興課のコンサートの会場として協力した。また、地域と一体となった取り組みを充実するため地域で実施されている「福岡河岸まつり」を実施した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.50	1.60	1.50
		人件費	11,948	12,677	11,885
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.00	0.00
		人件費	528	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			12,476	12,677	11,885
事業費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		1,645	285	332
	委託料		4,623	49	50
	使用料及び賃借料		770	770	770
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		711	350	275
支出合計			20,225	14,131	13,312
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	188	0	186
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		20,037	14,131	13,126
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			176	124	112

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者数		
	説明	「離れ」の特別公開日を土日・祝日等に公開すると共に、市報やホームページ、市内の学校などに宣伝を行い記念館での事業の展開（伝承遊び等）を図る。		
活動	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	3,100	3,200	3,200
	実績値	2,545	2,424	
指標 2	指標名	特別公開・特別講座・イベント等の開催による入館者の増		
	説明	入館者の少ない時期に講座、特別公開等を実施することにより、新たな入館者の増加を目指す。また、定期的な特別公開においてボランティアによる解説を取り入れること等により更なる増加を図る。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	750	800	800
	実績値	774	734	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	令和5年度は、特別公開により離れ公開を12回実施した。例年展開している特別講座などの事業は、「落語」3回の開催となった。 1展示事業 ※各事業集計中(1)五月人形展 4月15日(金)～5月16日(木) 408人(2)特別出品「旧福田屋の至宝2船津蘭山龍図と尾形月耕七福神」12月19日(火)～令和6年2月28日(日) 299人(3)福岡河岸記念館フォト・絵画コンテスト作品展 1月6日(土)～3月3日(日) 253人(4)ひな人形展 2月20日(火)～3月7日(金) 136人 2講座・体験事業(1)古民家で聞く落語 6/25(土)24人 10/21(土)26人 3/20(水祝)26人(3)はたおり「裂織りで作る小敷物」7/8(土)7人、8/19(土)7人、9/9(土)7人
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	江戸時代から明治時代中ごろにかけて新河岸川舟運で栄えた福岡河岸には、往時の様子を伝える貴重な文化遺産が残されている。本館は、市指定文化財回漕問屋福田屋の建物を保存・公開して、舟運と問屋の暮らしを展示している。明治初期の船問屋を再現しており郷土の歴史と文化を理解し地域への愛着を深めるものである。建築後150年経過しており、今後も永く後世に伝えるために、絶えず損傷個所の有無を点検し、文化財保護と快適な利用環境を両立させて整える必要がある。
中長期的方向性	
継続	